



防災会だより

第 35 号

発行：平成 24 年 04 月 18 日

発行責任者：防災会 橋本壽与

防災会長をお引き受けて

自治会長 / 防災会長 行正龍昭

「遠くの親戚より、近くの他人」という表現があります
これは何かあったら頼りになるのは長年近くに住んでいる
他人ということです

「何か」とは身近な事故とか病気でしょう
作今のニュースを見聞きしていると地震や津波などの災害
もたいへん身近になってきました

日本では、大災害というどうしても大地震が思い起こさ
れます

このような大災害に対しては昨年の東北大震災の教訓から
隣近所の連携の大切さが報じられてきました

松風台が出来た当初は年齢も境遇も同じような「思い」
をもって移り住んできた「集まり」でしたから仲間意識や
連帯感は充分ありました

その後、それぞれ成長し街も変化した結果、これらがだい
ぶ薄くなってきたような気がします

皆さん退職されて地域への溶け込みが必要と思い始め
さらに大震災発生、予想などのニュースからますます近所
とのお付き合いの大切さが実感はじめてきていると思い
ます

今年度自治会事業計画として
「大災害への備えの意識を強める」を運営方針としました
その根本は「日ごろのお付き合い、交わす挨拶」です

「お宅、消火器ある？消火栓なの？」

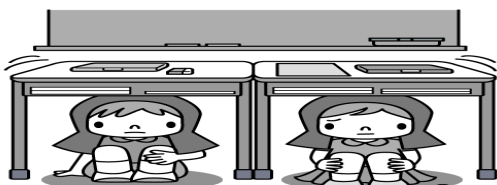
「自宅からの逃げ道は？避難先はどこ？」

「夜、明かりがついてないけど、だいじょうかな？」

「防災倉庫に食料あるのかしら？」

こんな会話が飛び交う素地を作ってゆく活動を支援し、展
開してゆきます

「遠くの親戚より、近くの友人」のネットを張り巡らして
ゆきたいと思っています



3つの〈自助〉で大災害に備えよう

防災会次長 橋本壽与

東日本大震災から1年が過ぎて様々な教訓を得ました。
茅ヶ崎の海岸地区では津波への備えが切実な課題であ
り、最優先で取り組まれています。

松風台地区は海岸から約4km離れて海拔約10mとは云え
想定は必要ですけれども、自宅にいる場合、最優先で各
家庭で もう一度自ら確かめておくことがあります。

①大地震の揺れによる家具転倒防止の備え

阪神淡路大震災では死者の80%以上が家具転倒・家
屋倒壊による圧死・窒息死でした。

新築の家屋は耐震性には強くても揺れ方は同じです。
自宅の室内を見回して固定してなく倒れそうな物が
ないか？点検してみよう。

②自宅から火災を発生させぬ備え

関東大震災では死者の約90%が火災による焼死でし
た。家屋が密集している松風台で、もし強風時に火の
手があがったら あっと言う間に燃え広がってしまい
ます。今冬もほぼ毎朝のように住宅火災がニュース
報道されました。大地震の時だけでなく日頃でも突然
の火災発生原因が無限にあります。自宅内を見回して
火災の恐れがないか？点検してみよう。

③自宅での避難生活の備え

大地震が発生して、幸いにも圧死を逃れ火災も防ぐこ
とができたら、次は自宅での避難生活が待ちかまえて
いるかもしれません。〈電気・ガス・水道〉が停止した
場合の備えはもう終わりましたか？点検してみよう。
各家庭で比較的容易に実施できる3つの〈自助〉を備え
ると松風台の防災力は抜群に向上するでしょう。

【今年度 防災会としての課題は】

先日の防災会総会において規則や指針を見直改訂して
〈近助・共助〉も促進できる体制を備えました。
改訂した結果が適正であるかどうかを見きわめたく、
今年度も引き続き会員の皆様のご協力をお願いします。

・平和時には、①防災要員を計画的にローテーション
して若返りを図り、機能（情報、消火救出、救護、避難
移送）別に活動を見直したい。

②自治会行事と一体で松風台全体の連帯感を生みだす
活動を拡げたい。

・もし大災害が発生した場合には、まず最初に

③自分や家族の安全を確認し、家屋、家財の保全を終え
日頃の連帯感を生かして隣近所の安全を確認しよう。

-2/4-ページ 活動組織関連図

-3/4-ページ 平成24年度 防災会組織

-4/4-ページ 平成24年度 事業計画

-2/4-ページ	活動組織関連図	はホームページ	防災会>規則・指針	を参照ください。
-3/4-ページ	平成 24 年度 防災会組織	はホームページ	防災会>組織	を参照ください。
-4/4-ページ	平成 24 年度 事業計画	はホームページ	防災会>事業	を参照ください。